

佐藤 陽也

Q1・クロッキーの際に、重視している要素や目指していることは何ですか？

最近、モデルさんが表現しようとする世界をできる限り受け止めたいと思っています。自分の勝手な解釈ではありますが、モデルさんの世界と繋がる事を目指しています。

Q2・好みの画面サイズや時間、その理由があれば教えてください。

木炭紙サイズが描きやすいと感じています。勉強を始めたのが650×500ミリのクロッキー帳だったのが影響しているのかな、と思います。時間はそれぞれに変化を楽しめるようになってきたので、今は、時間の好みは特にありません。

Q3・黒色の素描材料では何をよく使いますか？また、どのようなメリットがあると考えていますか？

木炭です。調子の幅が抜群に広い材料だと思います。

Q4・クロッキーにおいて「黒」をどのように使いたいですか？

暗さはもちろんで、黒い色として上手に使えたら…と希望をいただいています。

Q5・描き出す際、輪郭、稜線、軸などのうち、どの要素に重点を置いて始めることが多いですか？（特に人物の場合）

人物の場合は、軸を中心に左右対になる部位の傾きに重点を置くようにしています。人体のジグザグになる傾きが自然であれば、描き進めるのも楽になるように感じています。

Q6・クロッキーの制作途中で特に注意している点がありますか？

特に注意している点としては、過去に上手くできた描き方に固執していないかどうかは気にしています。

Q7・クロッキーの仕上がりを確信するのはどのような時ですか？

強いて言えば、描き出す前です。僕にとって確信は、全て幻想のようです。『いける！』って思った瞬間に油断してしまうものなのかもしれません、いまだに結果に結び付いた経験が無いように思います。むしろ、『やばい！やばい！このままじゃコケてしまう』って、がむしゃらにもがいている時の方が、仕上がりが良かったりします。

Q8・クロッキーとタブロー（彫刻の場合、立体作品）で同じ対象を捉える場合、感覚の違いなどはありますか？

時間の制約があるかないかで、感覚の違いは生じるように思います。

どちらが良いとか悪いとかでは無く、時間の長さによって対象の見え方・捉え方が自然と違ってくると感じます。

Q9・作品制作時にクロッキーをどのように役立てていますか？

僕は、空想で画面に飛んでいる人体を描く事が多いのですが、その際に人物クロッキーで経験した人体のかたちや動きには制作する上でとても助けられています。

困った時の資料としても、凄く助けられています。

Q10・あなたにとって、クロッキーはどのような意味を持っていますか？

僕にとってクロッキーは、生き方を学ぶ時間であり、生きていく上で大切なものです。

間違っているかもしれませんが、美術や芸術とは何かを生み出す為の技術そのものではなくて、美しい事や美しいものを素直に見つめ受け止める術なんだと思っています。

美しいものを見失う事が無いように、素直さや謙虚さ貪欲さまた相手を想う気持ちといった人生で大切な生きてく術を、僕はクロッキーを通して学んでいるのだと思います。

誰かと真剣に向き合うことの大切さや素直な気持ちを表現する喜び、何かに立ち向かう事の素敵さ、人生で大切な事を学んでいます。怒涛のように押し寄せる未来に向かって生きてく術を僕はクロッキーを通して教わっています。